



# 大歳人権だより

発行 大歳地区人権学習推進協議会 TEL 922-4035 FAX 922-4036

## 会長コラム～私の「ものさし」～

日々の人々との交流の中で、一つの事柄について話し合った時に、人それぞれの考えがあり自分とは違うなと思うことがあります。人には納得できる基準、範囲があり、私はそれを「ものさし」として捉えています。人々にはそれぞれの「ものさし」があり、私の「ものさし」とぴたりと合う人は滅多にいません。人々との交流において「人を尊重する」という人権の視点で考えると、「ものさし」は基本的に違うものであると理解し、相手を受け止めることが肝要でしょう。決して初めから重なり合うものではないことを理解し交流することだと思えます。

平たく言えば「折り合いをつける」ということでしょうか。相手に自分の思いを伝え、そして相手の思いを受け止め、最善の着地点を見つけ、お互いに納得することが、「人権を尊重する」ということに繋がるのではないかと思います。

しかし、この「ものさし」は流動的なものであり、決して普遍的なものではないことを理解しなければなりません。人の「ものさし」が一人一人異なることを思えば、「人権とは？」と問われても一言では言い表せないものではないかと思います。

大歳地区人権学習推進協議会 会長 吉富 崇子

## 人権教育講演会・特別活動(人権標語作成)が実施されました(鴻南中学校)

### ○人権教育講演会

11月12日(水)、人権参観日と人権教育講演会を開催しました。

人権参観日は、各学年で人権に関する道徳の授業を実施しました。人権教育講演会では、山口県国際交流協会多文化共生統括コーディネーターの藤井一憲氏を講師としてお招きし、「外国人との共生社会の実現に向けて」という演題でご講演いただきました。

山口県にも多くの在留外国人がいることや、外国人が「言葉の壁」「制度の壁」「心の壁」を感じていることを分かりやすく教えていただきました。外国人に伝わりやすい「やさしい日本語」への言い換えを考えることは、相手を思いやることについて改めて考える機会となりました。

### 【講演後の生徒の感想】

・自分が当たり前と思っていることを相手に押しつけてはいけないと思いました。今、たくさん外国人が日本に来ているので、外国人と関わることも増えると思うけど、その中で傷つくことを言ったり、差別をしたりしてはいけないと思いました。

・今回の講演で初めて知ったことも多くすごく勉強になりました。外国の方になんとかの偏見をもっていたり、自分も知らず知らずのうちに差別をしていることに気がつきました。これからは、やさしい日本語を使ったり、ジェスチャーをしたりして、外国の方が暮らしやすい世の中にしていきたいです。



・日本人が相手を傷つけないために使う敬語などが外国人からするとあまり良いものではないということをはじめて知りました。なので、今度外国人の人と話すときは短く分かりやすく伝えたいです。

### ○人権標語

今年度も各学年人権標語を作成しました。「人への思いやり・優しさにあふれ、ともに生きる命の大切さ」をテーマに、誰もが自分らしく、お互いに思いやりをもって暮らせる、明るく住みよい地域づくりをめざした標語を作りました。優秀作品を選出し、校舎内に掲示しました。

(裏面に続く)

- ・ごめんより 笑顔の花咲く ありがとう (1年生 河野 愛さん)
- ・思いやり 誰でもできる 人助け (2年生 中村 聖佳さん)
- ・認め合う 個性はきっと 伸びていく (2年生 鍋田 結月さん)
- ・優しさの 数だけ心に 花が咲く (3年生 廣實 美咲さん)
- ・差し伸べた 手が温める 手と心 (3年生 秋山 蓮さん)

## 人権教育講演会が実施されました【大歳小学校】

11月27日(木)に人権教育授業・人権教育講演会を実施しました。

子どもたちの発達段階に応じて、「相手を思う気持ち」や「自他の良さ」、「自他の権利」などに関する授業を実施した後、5・6年生児童を対象に、やまぐち総合教育支援センター ネットアドバイザー 辻岡 博之 様を講師として、「子どもを取り巻くネット社会」という演題でご講演いただきました。インターネットは、今や子どもたちにとってなくてはならない存在になってきています。それと同時に、ネットをめぐるトラブルも増えてきています。

辻岡先生の講演の中にも、ネットでの誹謗中傷や、オンラインゲーム上でのいじめについてのお話がありました。ネット上では相手の顔が見えません。相手の気持ちが分かりにくかったり、つい強い言葉を使ってしまったりすることで、いじめにつながるおそろしさを語られました。いじめの事例と対処法についてのお話は、子どもたちも身近な問題として真摯に受け止めている様子でした。オンラインゲームで気をつけることとして、顔が見えないからこそ言葉づかいに気をつけること、時間を決めてやり過ぎないように気をつけること、知らない人と話さないこと、イライラしたらゲームをやめてクールダウンすること、困ったらすぐ大人に相談することが挙げられました。

辻岡先生は、講演の最後に、ネットは使い方次第で、怖くも楽しくもなるものであり、自分を守る力と思いやりの心をもって、ネットと上手に付き合ってほしいと子どもたちに伝えられました。

私たちの身近には、さまざまな人権問題が幅広く存在している中、子どもたちには、まず身の回りの仲間や自分自身を大切にできる子に育ててほしいと願っています。



## 人権啓発図書もどうぞ！！

人権啓発事業の一環として、下記の図書を購入しました。大歳地域交流センターの図書室に置いています。ご興味のある方は借りにきてください。

### ● 『「多様性時代」の人権感覚』

多様性の時代を迎え、ますます複雑化する人権問題を前に、私たちは何を、どう変えていくべきか？具体的な事例と解説が詰まった一冊。

### ● 『やさしい猫』

好きになった人は外国人だった…。日本社会が抱える人権問題が凝縮されている話。

### ● 『発達障害と一緒に大人になった私たち』

当事者の著者が描く、発達障害を持つ9人の過去と現在。今を生き、未来につなげるためのヒントが詰まった一冊。

### ● 『認知症ポジティブおばあちゃん』

認知症になっても介護生活が始まっても人生は終わりじゃない。元氣になれてタメになる介護ブック。

### ● 『みえるとか みえないとか』

「目の見えないひとに話しかけてみる。その人が見る世界は自分とは大きく違っていた。」  
違いについて考える絵本。

### ● 『わたしのせいじゃない 一せきにんについて』

「1人の男の子が泣いている 始まりはしらない みんながやったんだもの 言い訳が続く。」  
責任について考える一冊。

### ● 『わたしの妹』

「この子、頭おかしいんやろう」この言葉をきっかけに、障害のある妹のことをわかってほしいと強く思うお姉さんと妹の物語。

